

日本・ベトナム青少年交流の森

# TAYと手 (手)

「南遊の会」会誌第4号  
発行日 2004年2月



【植樹活動の様子】



【植樹地からの移動】

おまたせしました！「TAYと手」の第4号をお届けします。

「南遊の会」は昨年8月、一昨年に続き、第2回のスタディツアーを行いました。ホーチミン市郊外のCan Gio(カンザー)にある「日越青少年交流の森」でのマングローブの植林活動です。これは、HCM 市農業・農村発展局およびCan Gio(カンザー)県人民委員会との合意に基づき10年計画でマングローブの植林を行おうというものです。

第4号では、2003年スタディツアーの話題を中心にお伝えしていきます。



【雨の中での植樹】



【植樹地での記念写真】

## 石丸会長の挨拶



「なぜ日本人がカンザーで木をうえるの？」

「南遊の会」代表 石丸 龍

SARS 対応に悩んだ 2003 年でした。その中で、多くの議論を経ながら今年も小規模のツアーを実施しました。今後も、予想できない障害が現れることでしょう。「南遊の会」の実力を正しく認識し、実力の範囲内で誠意を尽くした活動のみが「南遊の会」活動の継続を約束してくれることでしょう。

カンザー森林保護組合の事務所がある敷地には、2教室だけの小さな分校があります、生徒数 30 名ほど、休み時間には、みんな元気に狭い敷地内を走り回っています。時には一緒にビー球遊びをしたりして、私自身も楽しめます。ある日、3年生だという少年に質問されました。「おじさんは日本人だろう、なぜカンザーで木を植えているの？」この単純な疑問に、彼がわかりやすい答えを用意できていませんでした、色々な理由を並べることはできても彼の心にズシンと納得してもらえる答えを誠意を尽くして探し続けることが「南遊の会」活動なのだと思います。カンザーの子供たちも含め、ベトナムの方々との交わりを重ねる中で、きっと答えを見つけることができるでしょう。昨年、植えた種は見事に根付き、既に 10 枚を越える葉をつけた木もあります。成長を続けています。カンザーの子供たちと手を携え、木と共に私たちも成長を続けたいと願っています。

## 2003年スタディーツアー

今回、行われたスタディーツアーには日本人学生9人、ベトナム人学生16人を含む総勢35人が参加しました。マングローブ植林から小学校で交流会など若い人達の活気で溢れたツアーはみなさんの貴重な体験となったようです。では、刺激的なツアーの様子をお伝えします。



### 8/16(土) ベトナムへ

ついにベトナムHCM市に到着！到着が深夜だったこともあり、そのまま「おやすみなさい」？



### 8/17(日) クチトンネル

ベトナム戦争時に作られた地下に何層も張り巡らされた狭くて暗いトンネルを見学。戦争について考えさせられた。午後フリー。



### 8/18(月) カンザーへ

ベトナム人学生とペアになって植樹地のカンザーに移動。マングローブについて勉強した後、ベトナム民族解放戦線の様子をリアルに再現した野外博物館を見学。そこで出会った猿たちはとっても凶暴。ただどし

い日本語で、ペアと交流を深める。これから、よろしくね！



### 8/19(火) 植樹①&交流パーティー

足には地下足袋を、頭にはノン(ベトナムの笠)を付けて朝早くから植樹活動を開始。植樹地への移動には、船で1時間ぐらいかかりました。夜は森林組合の皆さんも交えて、交流パーティー。日本人は甚平、浴衣に着替え、踊り明かしました。



### 8/20(水) 植樹②&討論会

2日目の植樹活動では、ベトナムの雨期特有のスコールの歓迎を受け、全員びしょぬれでした。それでも、がんばって植樹を続けました。夜は、ベトナムと日本の学生との討論会。本音で話し合うことができ、交流がとても深まりました。



### 8/21(木) 表敬訪問&HCMへ

午前中は、カンザーのティンヒエップ学校を訪問。小中学生とゲームをしたり、サッカーをしたりしました。サッカーは、1-6で負けてしまいました。午後カンザーからHCMへ戻り、農業農村発展省にて活動報告。



### 8/22(金) 市内観光&お別れパーティー

ベトナム学生による市内案内。色々な所に連れて行ってもらった。シクロも乗れて大満足！そしてお別れパーティー……参加者の誕生日のお祝いも。



### 8/23(土) 終日フリー

皆思い思いに最後のベトナムを駆け巡った。8日間本当に楽しかった。別れがツライ……「またね！！」涙しながら帰国

★  
ありがとう  
ベトナム  
2003  
★

## **XIN GIÒI THÌOU !** (ベトナム語で「紹介します」という意味です)

今回スタディツアーではベトナム人と日本人がペアを組み、数日間生活を共に送りました。ベトナム人、日本人に関わらず、人それぞれ感じたことはたくさんあったと思います。そこで、今回スタディツアーでお互いに刺激を受けたベトナム人学生と日本人学生の感想を2003年スタディツアー感想文集「メッセージ」から抜粋してご紹介します。

ベトナムでは、観光旅行ではできない本当にたくさんの経験をしました。ベトナムの学生と日本人たちと一緒に生活をし、一緒にたくさんのことをしました。ベトナムに来る前は「ボランティア」ということを意識しすぎていたと思います。でも、実際マングローブの植林をしている最中は「ボランティア」ということは全く頭の中には、ありませんでした。本当にみんな協力して一生懸命苗を植えていました。今思うと、「ベトナムの学生、日本人たちと一緒にがんばり、楽しみ、いろいろ話をしたな。」ということがとても心に残っています。



**安部 匡起**

あそこの最後の日、植樹している最中に突然ザーザー大雨が降ってきた。レインコートを着るまでにたいていの人はずぶ濡れてしまいました。大雨にもかかわらず石丸さんの意見にこたえて一緒に現地にもどって植林が終わるまで作業しつづけました。大変感動しました。2回皆とともにこの活動を参加して私自身カンザーのことを気に入る一方だ。



**グェーン ラム  
ホアン**

## **CHUNG TA HAY HOC** (ベトナム語で「勉強しましょう」という意味です)

私たちはカンザーでマングローブを植樹しましたが、その、植樹について、「南遊の会」副代表の藤本 潔さん(南山大学)が今年度の日本マングローブ学会で発表された要旨をご紹介します。題名は、「ベトナム、カンザー地区におけるマングローブ再造林プロジェクトの概要と植林後1年目の状況」です。

### 1. 背景と経緯

カンザー地区は、ベトナム戦争時の米軍による枯葉剤散布でマングローブ林に壊滅的な打撃が与えられた地域である。現地では戦中・戦後から、その荒廃した土地に積極的に植林を進め、ほとんどの被害地が緑で覆われるほどに回復した。しかし、一部地域では立地条件に適さない樹種が植林されたため、未だ十分な植生回復が見られなかったり、もともとの樹種構成とは異なる単一的な林相の森となった場所もある。現地のマングローブ生態系保存管理局はそのような不成績造林地を本来の多様性に富む生態系に回復させるための再造林事業を計画し、2002年度から10年計画でその事業を開始したが、事業運営に必要な資金確保がひとつの大きな問題となっている。マングローブ植林の共同作業を通して日越青少年の異文化理解や環境教育に貢献することを目的に発足した NGO「南遊の会」は、その実現についてホーチミン市農業・農村開発局と協議する過程で上記事業計画を知らされ、現地森林局の技術指導のもと、50haの再造林事業を2002年度から10年計画で実施する契約に至った。

### 2. 再造林計画

森林局の計画では、75,740ha にのぼる生物圏保全地区を、伐採利用を禁止した生態系保存区域(中心地帯 Core zone: 4,721ha)、持続可能なレベルでの森林環境利用区域(緩衝地帯 Buffer zone: 37,339ha)、居住・生産地域(移行地帯 Transition zone: 29,310ha)の3帯にゾーニングした。このうち、主として緩衝地帯に含まれる3,122haが、第1期の5年間で多様性に富んだ森造りを目指す地域に指定された。「南遊の会」が事業契約を結んだ地区は、生物圏保全地区のうち最も内陸側に位置する24区で、正に陸域とマングローブ域の境界付近にあたる。ここは、ベトナム戦争後にユーカリが植林さ



れ、*Phoenix paludosa* などが林床を覆う、典型的な不成熟造林地となっていた。ベトナム側の計画では、これらを伐採し、マングローブ種のうち比較的高い地盤高を好む *Ceriops tagal* や *Lumnitzera racemosa*、バックマングローブ種である *Intsia bijuga* や *Thespesia populnea* など多様な樹種を植林する予定である。2002年8月に植林された樹種は *C. tagal* と *L. racemosa* の2種であった。

### 3. 再造林地の立地環境と植林後1年目の状況

再造林地は、特に潮位が高くなる7～8月の数日間のみ冠水する。植林された苗の成長過程をモニタリングするために10m×30mの固定プロットを設置した。プロット内の地表面の起伏は最大21cmで、*C. tagal* が183本、*L. racemosa* が31本植樹されており、植林後1年間の内に立ち枯れした苗はわずか2本であった。地下部(深度1mまで)に蓄積されている炭素・窒素量は、3地点平均でそれぞれ440.6±71.1 tC/ha、16.6±0.5 tN/haであった。

今後はさらに多様な樹種が植林される予定であり、それに合わせて固定プロットを増設しつつ、地上部成長過程および地下部有機物蓄積過程を長期モニタリングしていく予定である。

## ANH CÓ THAM GIA KHÔNG? (ベトナム語で「参加しませんか?」という意味です)

### ベトナム料理を楽しむ会

ベトナム料理を自分たちで作って、楽しんじゃおうという会です。「南遊の会」の内藤豊さんやベトナムからの留学生のみなさんに料理の仕方を教えていただきます。ベトナム料理を食べながら楽しく交流しませんか? 会場の関係で定員30名(先着順)です。

日時: 3月6日(土) 午前9時30分～午後2時30分 参加費: 2000円

場所: 生協文化会館 (地下鉄「本山」4番出口下車徒歩1分) (052)781-6161

申込先: 「南遊の会」内藤豊 ・FAX(052)722-2631

### ベトナム語入門講座

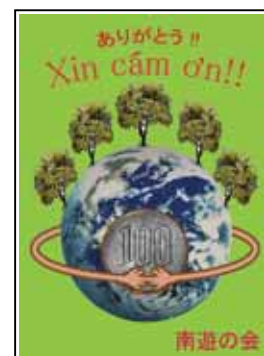
日常会話を中心にベトナム語の基礎を学ぶ5回連続の講座です。1回の講座時間は、2時間で、講師は、南山大学総合政策学部大学院へベトナムから留学されている方を予定しています。参加費は、5000円で、5月下旬開講の予定です。場所や時刻など詳細は、4月に発表いたしますので、ご期待下さい。

問い合わせ先 「南遊の会」事務局 大西哲雄 ・FAX(052)781-4469

## お知らせ

### お願い ～マングローブパスポートについて～


毎年の植樹目標は5haですが、1haにつき1000\$の費用は、現在の「南遊の会」にとってかなりの負担になります。そこで会内外の方々に募金運動を呼びかけ、ご協力頂いた方に「マングローブパスポート」をお渡ししています。金額は1口100円、何口でも結構です。そして「日越青少年交流の森」完成の暁に、ご協力頂いた方々のお名前を刻んだ記念碑を立てる計画です。



マングローブパスポート

### 2003スタディツアー感想文集「メッセージ」完成!!

2003年8月に行ったスタディツアーの感想文集「メッセージ」が完成しました。ベトナム、日本両国からの参加者の感想を中心にスタディツアーの概要も紹介されています。[SUA CHUA]や「サングラス」などコラムも充実しています。ぜひ一度お読み下さい。マングローブパスポートを5口以上していただいた方にお渡ししています。

 **編集者 大西哲雄・安部匡起・戸嶋啓夫**  
「南遊の会」ホームページ

<http://www.namdu.jp>

**事務局 大西 哲雄**

**住所: 〒464-0028**

**名古屋市千種区東明町 2-10-301**

**FAX052-781-4469**

